

広報 けいせん

9

2018
月号

》平成30年8月31日発行
》No. 696



「
凜
」



不 動 心





己に射ち勝て!

弓を引、息を止める。その瞬間、弓道場の空気は静止する。放たれた矢は空気を切り裂くように飛び、はるか遠くの的を射止め、彼女がふうつと息を吐く。何千回この動作を繰り返したのだろうか…。

今回取材した彼女は、福岡県立嘉穂高等学校3年生の宮地杏奈さん。時折見せる笑顔は、先ほどの鋭い眼差しとは打って変わって、まだ幼さが残る。平成30年度の福岡県高等学校総合体育大会弓道選手権の個人戦でみごと優勝を果たした彼女は、桂川町の出身だ。

『飯塚日新館中学校でお世話になった先輩が、嘉穂高校で弓道部に所属していたから』という理由で弓道を始めた。

『弓道は高校から始める人がほとんどなので、誰にでも活躍するチャンスがある種目なんです。』と話す彼女。しかしスターラインは同じでも、優勝の栄光を掴めるのは毎試合1人しかおらず、彼女はそれを勝ち取った。

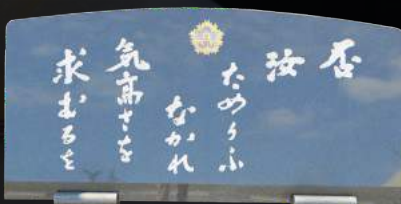
『弓道を好きという気持ちは誰にも負けない。常に弓道の事を考えている。』という彼女は、回リから「弓道馬鹿」と言われても「誉め言葉のようで嬉しい」というから、弓道愛は相当なものだ。

座右の銘は「継続は力なり」。弓道の追求は、いくら好きでも辛い事も多く、自分に負けそうになる事もあるという。しかしそれでも「練習を重ねてきたという事実」と「継続した努力」に裏打ちされた自信が、自分を支えているという。

8月2日に静岡県で行われた全国大会では惜しくも準決勝敗退に終わった。

しかし、福岡県の高校生代表として先日、国民体育大会(国体)の九州大会に出場し、全国大会の切符を再び手にした。『またとないチャンスをモノにし、全国制覇の夢を叶えたい』とキラキラした目で語ってくれた。また、この全国大会のかかる試合で、改めて「一本の重み」を感じたという。勝って驕らず負けて腐らず、常に向上心をもつて稽古に励み、最後まで戦うことを誓った。『今の自分があるのは両親や顧問の先生、部員みんなのおかげ。感謝の気持ちを忘れないように練習に励み、嘉穂高校を弓道の強豪校にしたい。』と語る彼女からは、自分に勝ちたいという「凜」とした強さが漲っていた。

桂川町から全国へ羽ばたく「不動の心」を持つ、宮地杏奈さんの更なる活躍に期待したい。



8月18日・19日
平成30年度国民体育大会
第38回九州ブロック大会 3位

福井国体出場決定